

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和7年3月24日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670105222
法人名	医療法人 春風会
事業所名	グループホーム はるかぜ西伊敷
所在地	鹿児島県鹿児島市西伊敷四丁目45番5号 (電話) 099-228-2772
自己評価作成日	令和7年2月20日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/content/wamnet/pcpub/top/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センター福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	令和7年3月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

閑静な住宅街に位置しており、買い物にも便利なところにあります。庭を広く取っており、季節の野菜や花を植えながら、利用者の方々と共に草取り、肥料やりなどで端正に育てています。散策の際に花や野菜の成長を見る事で、利用者様も積極的に草取り等に参加して下さり、野菜を収穫し一緒に調理等されるときには、「自分が育てた野菜」と嬉しそうに召し上がる様子も見られています。新型コロナが5類に移行してからは、ご家族との面会や地域との交流が少しずつ増えてきて、ご家族も積極的に関わって下さっています。地域に対しては町内会に入りながら、回覧板を回したり、町内会長と対話することで、関係が途絶えることの無いようにしています。また、業務にとらわれず、朝の集い等で思いや意向を伺い、ドライブや買い物に出かけるなど、臨機応変な対応を心がけており、常に利用者主体のケアを行うことができるようにしています。年間としては、毎月の鉄板焼きや季節ごとの催し物を楽しんで頂けるように、利用者様と一緒に行事や行事食を決定するように心掛けています。また、身体機能の維持向上を図る目的で個別に体操、生活リハビリにも力を入れた支援を実施しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・当事業所は協力医療機関と24時間医療連携体制が出来ており定期的な検診や往診も受けられる。1週間に1回の看護師の健康チェックで疾病の予防や早期発見に努めて利用者が安心して生活できるよう支援している。
- ・コロナ対策を取り、面会制限をせず何時でも誰でも面会が出来るよう利用者や家族の希望や意向をくみ取り支援している。
- ・重度化や終末期に向け、入所時マニュアルに基づき説明し、「事前意思確認」をして、早期から主治医・看護師・家族・関係者と話し合いを重ね家族と共にチームで支える、看取りの体制が出来ている。
- ・コロナ禍の中、家族参加のホーム行事を工夫して、毎日が楽しいものになるような支援を工夫している。
- ・育てた野菜や地域の商店から購入の旬の野菜を活用し、利用者と一緒に食事作りをして、職員が手作りした食事を一緒に食べて食事が楽しいものになるよう支援している。
- ・管理者や職員は数多くの研修、勉強会で資格取得に励み、日々のケアの質のレベルアップを図っている。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I．理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	内部研修で理念について学びながら、今年度はご家族との交流についての話し合いを行い、外出や外泊についてご家族に提案していく事として、外泊できた方もおり、外出の機会も増えました。	理念はホールや玄関に掲示している。毎日唱和して、ケアの中でふり返りや確認を行い、理念を共有し支援している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に入り、回覧板を見たり回す際に言葉を交わしていただいています。5月に開催された運営推進会議には町内会の方も参加して下さり、一緒に消防訓練がしたいや、ラジオ体操等での場所提供についてお話しさせていただきました。	町内会に加入し、中学生職場体験学習の受け入れや散歩時の声掛け・挨拶・近隣の店での買い物等、地域との交流を大切にしている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	入職時と年1回は必ず認知症についての勉強会を開催し、外部での研修があった際には参加した職員が報告を行い、認知症についての理解を深めるようにしています。また、家族や地域の方々の相談に応じることが出来る事をお伝えしており、気軽に相談して頂けるような雰囲気づくりを心掛けています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の中で提案のあった、外出や外泊・居室内での面会は解禁致しました。事故報告やヒヤリハットの報告には、転倒からの骨折があったことについて、出来れば転倒の無いようにして欲しいとの意見あり。居室内では間に合わないこともあるが、できるだけ早く対応できるように心がける事をお約束する。	会議はコロナ禍の中でも地域住民や家族の出席があり、現状報告や課題報告等、双方向的な話し合いが出来ている。面会時や電話・手紙等の意見や要望を紹介し、サービス向上に活かしている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	ホームの運営や相談事について、長寿安心センターや市役所に相談に行くようにしています。今年度は人員不足から運営推進会議の日程がギリギリまで定まらなかった為、来年度からは事前に日程をお伝えする事で運営推進会議にも参加して頂けるようにしていきます。	担当者に困難事例報告や相談・利用者の暮らしぶり・ケアの様子を伝えている。ウェブ研修に参加したり、地域包括支援センターの職員と密に連絡を取り合い、協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束マニュアルに基づき、絶対に心身の拘束は行わない事を基本にしています。身体拘束委員会は年4回の開催ですが、毎月のミーティングで身体拘束について考察しており、現状、身体拘束は行われておりません。今後生命・身体に害を及ぼす可能性があった際は、家族と検討し、市の担当者にも助言をもらいながら対応していくつもりです。	年4回身体拘束適正化委員会を開き事例検討会やケアの適正化について研修会を行っている。毎月のミーティングで言葉遣いも含め日ごろのケアで話し合い、利用者の意向や安全安心を図っている。見守りの重要性を全職員が理解し、身体拘束をしない暮らしを支えている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年2回の虐待防止委員会と内部研修での勉強会を行っており、虐待についての意識を高めることが出来るようにしています。また、声掛けについて気付いた時は職員同士で声かけを行っています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	年に2回の内部研修と外部研修に参加し、ミーティングでの報告、再確認や他職員の学びが出来るようにする事で、利用者様の権利を擁護することができるようなケアが出来るように心がけています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居の際には、必ず見学に来て頂くようにしており、契約や荷物搬入も事前にして頂く事で、お話を伺う機会を増やすようにしています。契約の際には、ゆっくり時間を取り説明しながら、質問がしやすい雰囲気心がけています。また、変更がある場合は書類作成し個別で説明し同意を得ています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	運営推進会議だけではなく、普段の面会の際にもお話を伺うようにしています。また、玄関に苦情や相談を書いて頂けるスペースと箱を設置しており、入居の際にいつでも使って頂ける事をお伝えしています。	面会・電話・手紙などで家族からの意見や要望を聞いている。本人からはおやつ時や入浴中の会話の中で意見や要望を聞き取っている。本人・家族の要望を取り入れ、見守りを密にしながら居室での制限なしの面会を実施している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月のミーティングで職員の意見を聞くようにしており、そこで出た意見は管理者会議や電話等で本部に伝えています。本部でも、出た意見については検討出来る範囲での要望に応えて頂いています。	管理者は日々の勤務の中で職員の意見や要望を聞き勤務時間に配慮している。ケアの方法や福祉用具の購入等に対応し、職員が働きやすいよう環境作りに努めている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	代表者は、毎月開催されている管理者会議にて状況報告を受けています。また、昇給や昇格の水準を設けており、研修についても配慮しています。希望があれば他ホームへの移動も迅速に対応しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ミーティングを利用して、毎月内部研修を開催しています。また、外部研修についての情報を提供しながら、積極的に参加出来るように、研修費の法人負担や勤務の調整を行うことで、職員への支援を実施しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	毎月の管理者会議や法人主催の研修・外部での研修に積極的に参加する事でネットワーク作りを行っており、その関係から共同で研修や行事を行うことが出来ています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居の際には、ご家族の許可を得た上でご本人との面談を行い、直接不安ごとや要望を伺いながら関係性を作るようにしています。また、先にお会いすることで知らない人だらけの中に入るという気持ちを軽減し、安心して生活することが出来るように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談を受けた時だけではなく、入居前にご家族に時間を取って頂いています。事前に数回ホームに来ていただくことで、今までの生活状況やニーズを把握出来るように心掛けています。また、定期的に想い・意向を伺うことで信頼関係を築くことが出来るように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族との面談を通して、何が一番必要であるのか、本人・家族と共に検討し他サービスを含めた柔軟な対応が出来るように、情報収集を行いより多くの選択肢を提示することが出来るように努めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居時だけではなく、日々の生活の中で本人の要望や意向について尋ね、本人と一緒に環境作りを行うことで、暮らしを共にしていると思うことが出来るような環境になるように努めています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月のお便りで病院の受診結果・生活状況の記録・ホームの行事や日々の生活状況等をお伝えすることで、ご本人の現状を把握して頂けるようにしています。また、ケアプランの中には必ずご家族にも役割を持っていただくことで、共に支えていけるような関係作りが出来るように努めています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会や外出・外泊の制限は解除しており、ご家族の皆様も積極的に関わってくださっています。また、近所に住まわれていた方や親戚の方々も面会や外出に協力されています。外泊の際にはご家族が不安になることがないように、いつでも連絡が取れるように配慮しています。	コロナ対策をして自由な面会を取り入れ、電話やLINE等、多くの手段を使い関係が途切れないよう心掛けている。家族や入居者が望んでいる外出・外食・外泊が出来るよう模索しながら、関係が継続出来る支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が安心して生活ができるように、ホールでの座席やそれ以外の場所の環境を状況に応じて整えるようにしています。また、見守りの際には一人一人が孤立することの無く、仲の良い方や職員と関わる事が出来るように心掛けています。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終わった後でも必要時には相談を受けており、ご親戚等の入居相談も受け付けることが出来るように体制を整えており、その旨を退所の際にもお伝えしています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	一日の中でお一人お一人と寄り添う時間を必ず作るようにしており、その日の要望を確認する事で本人本位のケアができるようにしています。思いを伝えることが困難な方に対しては、生活歴等から推測したうえで、表情等を確認しながら対応しています。	日常のかかわりの中で表情やしぐさ・会話等から希望や意向をくみ取り、家族との話し合いや職員の気づきから思いを把握している。意志疎通が困難な場合、職員の情報や複数の記録簿も参考に話し合い支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の段階で、ご家族や以前使われていたサービス提供元から情報を頂くとともに、ご本人にも話を聞きながらこれまでの暮らしの把握が出来るようにしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の一日の過ごし方を記録に残しており、毎日朝夕の申し送りやカンファレンス等を利用して、本人の現状について職員全員で情報の共有が出来るようにしています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	1回/3ヶ月だけでなく、毎月行っているカンファレンスの際に状態の変化が見られた時にも変更の必要があれば、ご家族や主治医とも連携を取りながら介護計画の見直しをすることで、より現状に即したケアが出来るように心がけています。	日頃の暮らしの中やカンファレンスで希望や意向をくみ取り、家族との話し合いや職員の気づき等から思いを把握している。意志疎通が困難な場合、職員の情報や複数の記録簿も参考に検討している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	実施記録や申し送りノート・カンファレンスを利用して、お一人お一人についての気づきや状況の共有に努めています。また、日々お一人お一人について注意深くケアを行うことで見直しに生かせるようにしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状況に応じて、その時に一番必要なサービスは何かを日々確認しながら、柔軟性のあるサービス提供が出来るように、情報の収集や横のつながりも大切にするように心掛けています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会に参加しており、近隣の方々との交流も散歩の際の挨拶等で行ってはいるが、地域資源についての知識が不足していると感じている。今後はホームで出来る事を模索しながら地域の一員として関わっていきたい。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医については、入居の段階からご本人やご家族の意向をお伺いし、希望に沿った医療を受けられるようにしています。また、主治医との連携についても、診察や往診の際を利用して連携を図ることが出来るようにしています。	協力医療機関とは24時間医療連携体制が整っており、看護師による週1回の健康チェックもある。受診診療が必要な場合、職員同伴診療もある。他に複数医療機関と協力関係を密に結んでいる。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	3/1より医療連携加算を取得しており、1回/週看護師の来所が決定しています。現状でも特指示を受けた看護師が来訪しており、相談事にも対応しています。また、定期受診の際には提携病院の看護師との情報の共有を行うようにしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の段階で医療機関に対して早期の退院をお願いしています。入院先の病院と連携を図り、生活リハビリに力を入れていることを伝え、ホームで出来る事を教えて頂きながら早期退院だけではなく、できるだけ早く入院前の状態に近づけるように努めています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に意向を聴くだけではなく、本人の状態をお伝えする際にもホームで出来ることや出来ないことをお伝えしながら、これからの意向についての確認をしており、早い段階で本人が望む状態での終末期に向けた支援が出来るように心がけています。	入居時に看取りの指針を説明している。重度化や終末期には本人の状態を説明し、本人や家族の意向や希望を聞きホームで出来る事できないことを丁寧に説明して、本人・家族が望む支援体制で行っている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応についてのマニュアルを作成し、すぐに見えるところに置いてあります。また、ホーム内ですぐに対応できる体制作りのために、年1回以上は内部研修を行い、外部での研修についても支援を行うことで、緊急時に慌てることの無いように対策しています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を行っており、そのうち1回は消防の方に立ち合いを願いをしています。訓練には出来るだけ全職員が参加できるように勤務を組むようにしており、緊急時には近隣の方にお手伝い頂けるように町内会の方へお願いしています。	消防署の指導を受け昼・夜想定で避難誘導訓練を職員や入居者を行う計画がある。防火管理者を中心に非常災害時の対策について研修を実施し職員の理解と経験を積んでいる。備蓄は水・乾麺・レトルト食品等がある。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	内部研修に人権擁護や成年後見人制度・虐待防止等取り入れており、利用者を人生の先輩と考えながら、お一人お一人が誇りをもって生活することが出来るように、態度や言葉かけを日々振り返りながら支援する様に心掛けています。	人としての尊厳を大切に、思いやりの心を持ち、言葉遣いや声かけは人生の先輩として尊敬の気持ちを失わない様に気を付けている。日々のケアを振り返りながら、プライバシーを損ねない対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ミーティングやカンファレンスを利用して、本人の状態に応じて希望や自己決定が出来るような支援についての話し合いを行っています。ご家族に相談したり生活歴からの提案も個別に対応する事で話しやすい環境作りに努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	検温時や会話の際に利用者お一人お一人に希望を聞き、その日一日を本人が納得した形で過ごすことが出来るように日々柔軟な姿勢で支援にあたることが出来るように心掛けています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	整容の際は出来るだけ本人に身だしなみをして頂くようにしており、入浴時や外出の際に着る衣服もご本人に選んで頂く事で、おしゃれを楽しむことが出来るよう配慮しています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	畑での野菜作りや、食事の準備や片付けを職員と共に行っています。また、食事の献立についても意見を伺うことで、食事を楽しみにされている様子が見られています。	自家菜園で収穫した野菜を活用したり、入居者に下ごしらえを手伝ってもらい、食事準備をしている。職員で献立を作成し、嗜好や食形態に配慮し、栄養バランスを考え、行事食を数多く取り入れて食事を楽しいものになっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の摂食や摂水の状態を記録に残しており、不足するようであれば、一日を通して十分な摂取が出来るように補食や嗜好品も考慮に入れた柔軟な対応が出来るようにしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケア時には、必ず職員が見守り・支援を行うようにしております。その際に義歯の具合・口腔内の観察を行い、本人の希望や必要に応じて歯科医と連携を図ることで口腔内の清潔保持に努めています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の排泄状況を記録しながら、その人の排泄パターンや力量を把握するように心がけています。また、本人の状態に応じた声掛けや排泄介助を行うことで、個人個人が自立した排泄行為を安心して行えるような環境作りに配慮しています。	排泄パターンを把握し、動作や表情等、小さな情報も共有してトイレ誘導し自立した排泄を支援している。夜間は個人に合わせた排泄スタイルを考慮し、トイレ誘導で排泄の自立支援をしている。安全の為に夜間ポータブルトイレ使用者もいる。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個別に排泄状況を記録しており、飲食の摂取量、運動量などを工夫しながら自然な排便が出来るように支援しています。必要な時は主治医に相談して緩下剤の使用をすることで便秘の予防を心がけています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入浴は最低2回/週に予定しています。また、入浴のタイミングや回数は希望を言って頂くよう利用者様にはお伝えしており、出来るだけ利用者様の希望に対応できる様に心掛けています。	入浴は基本的に週2回、午前中であるが、本人の生活習慣に合わせて入浴準備をしている。快適な湯温設定・入湯時間・脱衣場の温度管理に気配りし、風呂上りは保湿剤を塗布して気持ち良い入浴を支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の希望だけでなく、申し送りでのその日の状況や表情等も確認することで、利用者様が安心して休息することが出来るように、柔軟な対応を心がけています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情報は職員がいつでも見えるところに置いており、職員全員が内服薬について理解することが出来るようにしています。また、内服薬の変更等があった際は情報の共有がスムーズに出来るように工夫しています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居時の聞き取りだけではなく、日々の会話からも一人一人の生活歴や意向を把握するように努めています。また、集団や個々で役割や楽しみごとを持ちながら生活することが出来るように環境を整えることが出来るよう心がけています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	感染症対策のため、季節ごとの外出は少人数での対応で行っていますが、希望時は近隣の散歩や買い物していただくことで外に出る機会を増やせるようにしています。また、ご家族との外出についても制限をしていない為、ご家族の協力で外出や外食を楽しまれている方もいます。	散歩やドライブ等、戸外に出かける支援をしているが、コロナ禍の中、利用者が望む、花見・ドライブ等、戸外に出かける事が減少している。家族や地域の人々と協力を密にして外食・外出・買物の機会を増やす取組みを計画中である。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の許可のもと、お金を持っている方もいらっしゃいます。手持ちの無い方についても、ご家族より希望される際は菓子等の購入で預り金を使うことに許可を頂いており、一緒に買い物に行き、預り金からご本人にお金を支払っていただくようにしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	ホームの電話は希望時には使用することができる事を利用者様にお伝えしており、実際にかけられている方もいらっしゃいます。行事で年賀状や暑中見舞い等を書くようにしており、利用者様が送りたい方に送付できるようにしています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースには季節ごとに一緒に作成した貼り絵や塗り絵等を飾っており、何を飾るかも一緒に考えることで、作っている段階から季節感が分かるように配慮しています。また、共有スペースは、カンファレンス等で利用者様が戸惑うことが無いか都度確認しており、困りごとがあった際はわかりやすいように工夫するようにしています。	フロアは日光が差し込み明るく、定期的な窓の開閉や温度・湿度をチェックしている。掲示物のはり絵やカレンダーは利用者の個性や頑張り感が出ている。壁絵作品は毎月利用者参加で季節が感じられるよう工夫している。ソファが置かれ快適に過ごせる環境作りである。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースには食事用のテーブルとソファを4ヶ所配置して、一人一人が思い通りに過ごす場所についての工夫をしています。また、表情等を確認しながら過ごす場所の提案も出来るようにしています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際に、今まで使っていた馴染みの物を持参して頂くようにお願いし、配置や飾り付けも本人とご家族で行って頂いています。また、生活の中で改善したい部分が出てきたときには職員が協力する事で、本人が居心地の良い生活空間を作ることが出来るようにしています。	居室は神棚やテレビ・孫の写真等、馴染みの物が置かれ、外出時には好みの整容が出来るように、家族や本人と話し合い、本人の意向にそった支援が出来るよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様の日々の状態を職員全員で共有しながら、本人がしたい事や出来る事を安全に行うことができるよう表記や配置についての話し合いを行うことで、安心して自立した生活が送れるような環境作りに努めています。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない